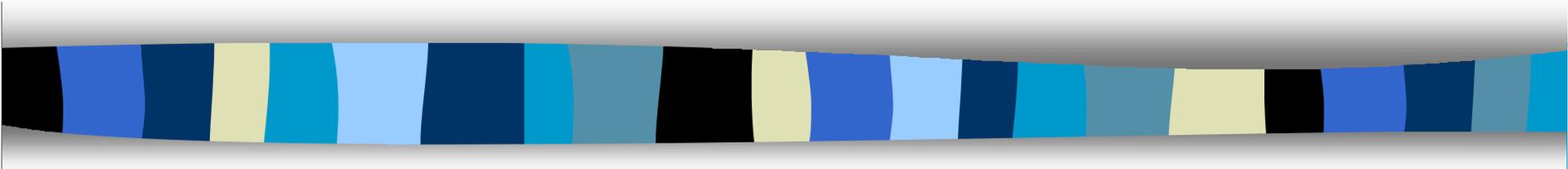


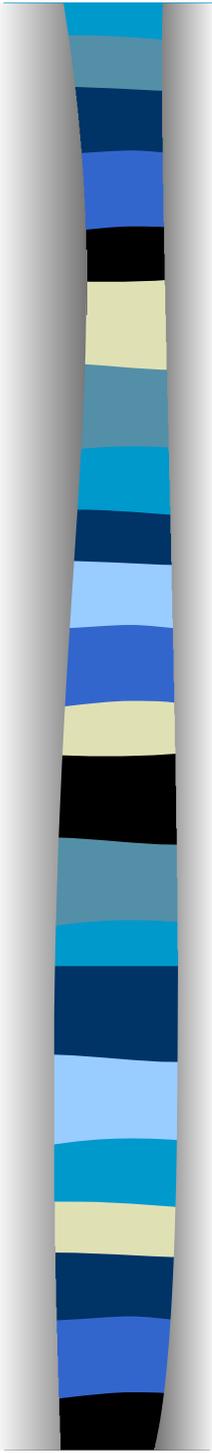
自閉症の理解と家庭の療育

—「一般化障害仮説」の視点から—



2007/9/11

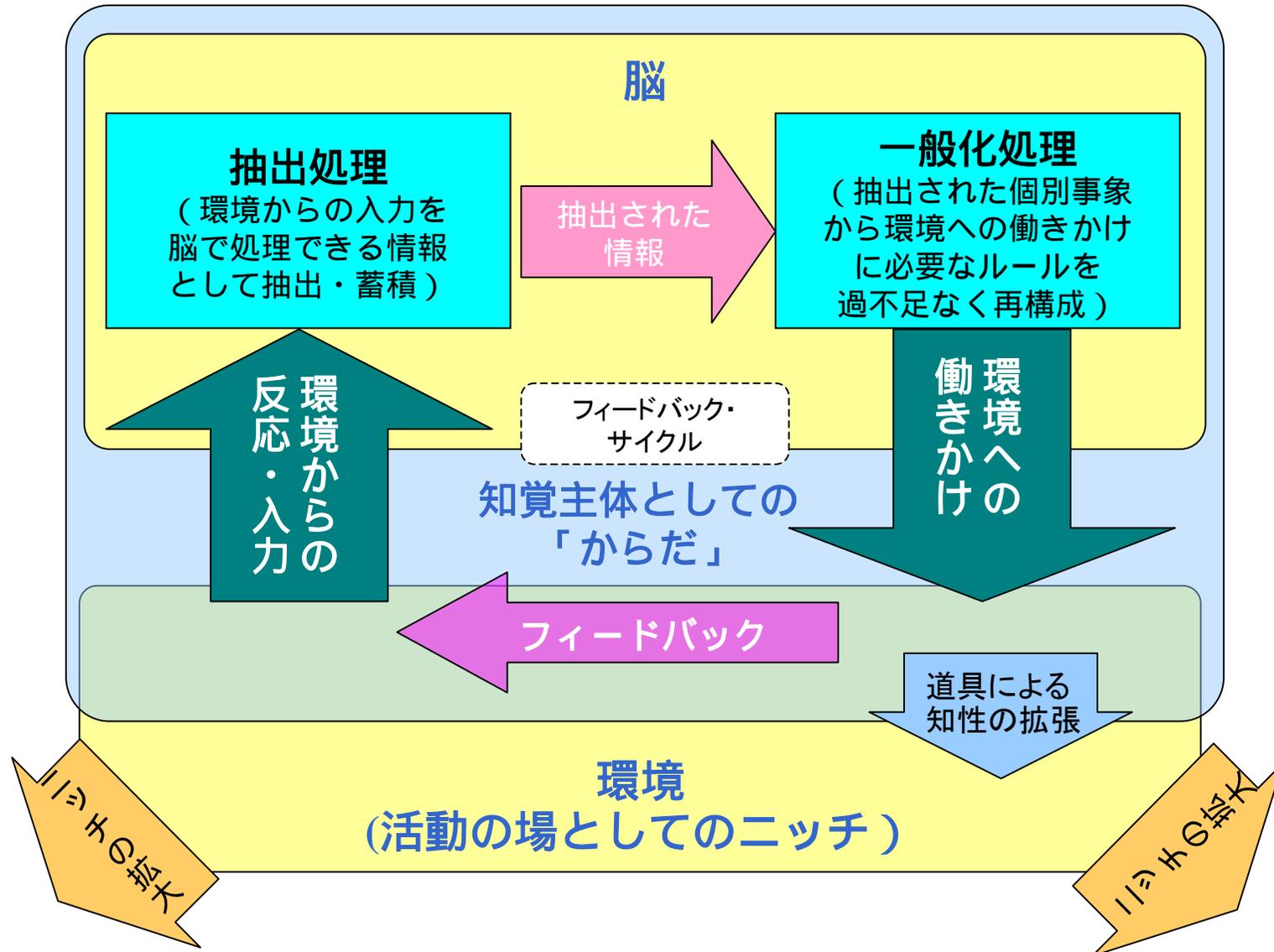
そらパパ

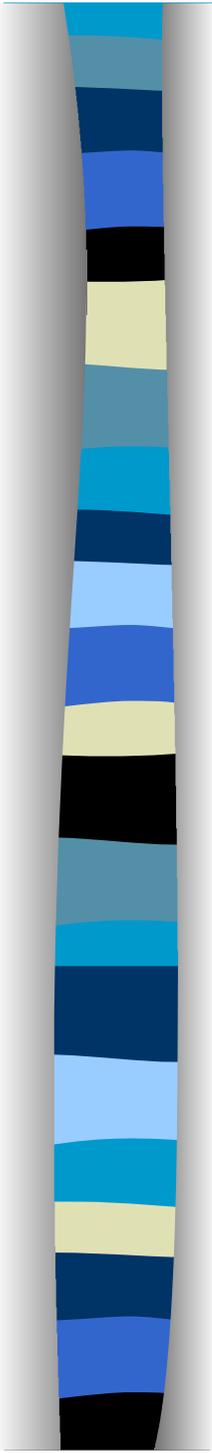


自閉症をどう「理解」するか

- 自閉症＝「環境と相互作用する力」の発達障害
 - － 世界は最初から「意味があるもの」としてそこにあるのではない
 - ・ 学習の必要性
 - － 環境がもつ意味、利用法(＝アフォーダンス)を、環境とかかわることで発見し、学習し、その後利用していく＝この過程こそが発達
 - － 定形発達の子どもは、ただ環境に放り込まれるだけで、これら環境との相互作用を学習していくが、自閉症スペクトラムの子どもは、ただ環境にいるだけでは、環境との相互作用の学習がすすまない→障害の発現
 - ・ コミュニケーションの遅れ
 - ・ ことばの遅れ
 - ・ 趣味の限定やこだわり etc.
 - － 環境から学ぶことは、単に経験を記憶することではない
 - ・ 経験＝過去の事象
 - ・ 対応すべき課題＝将来の事象
 - ・ 環境から学ぶ＝過去の事象から、将来の事象に適用できるような一般化されたルール、プロトタイプを学習し、実際に応用すること
 - － 「過去の経験」を「将来への知識」に変える＝一般化能力
 - ・ たくさんの個別の経験から、一般的なルールやプロトタイプを見出す能力
 - ・ 自閉症児はこの能力に障害がある、と考えるのが一般化障害仮説の立場

環境との相互作用のイメージ

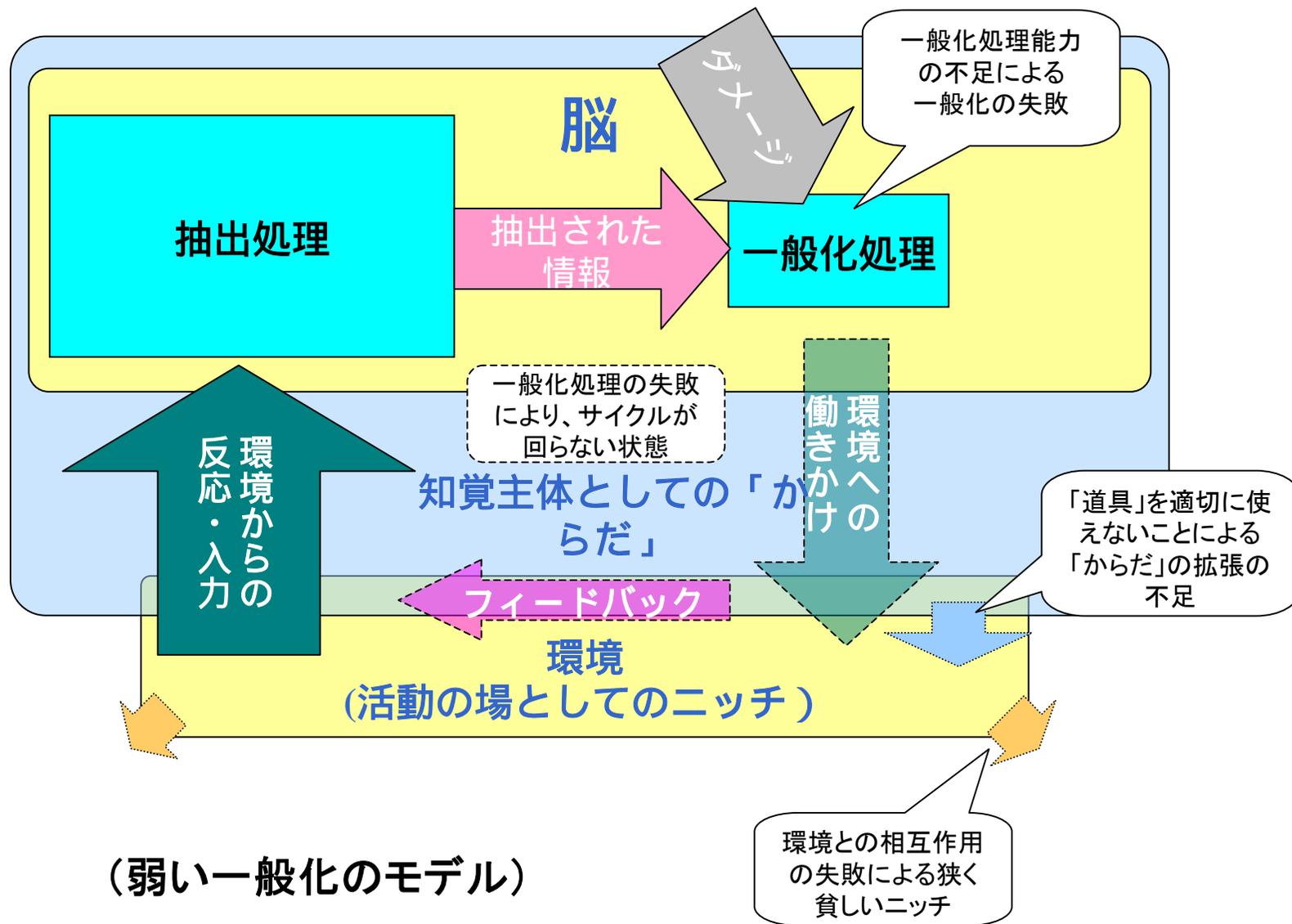




環境との相互作用におけるキーワード

- 抽出処理
 - 環境からの入力を情報として抽出・蓄積する脳の情報処理
- 一般化処理
 - 抽出された個別事象から環境への働きかけに必要なルール、プロトタイプ(典型像)を過不足なく再構成する脳の情報処理
- 「からだ」の存在
 - 「知性」の前提として、環境を知覚し利用する「からだ」が必要
 - 「脳」から「からだ」へ、さらに「環境」に広がる「わたし」
- フィードバック・サイクル
 - 環境への適切な相互作用を学習するためには、フィードバックサイクルを「大きく、健全に」回す必要がある
- ニッチ
 - 個々の生命体が意味をもった活動ができる「場」、領域のこと
 - ニッチを拡大することは、生活の質を高めることにつながる
- 「道具」による知性の拡張
 - わたしたちの「知性」は「道具」によって拡張されている
 - 例: 電卓による計算、標識による状況把握、ことばによるコミュニケーション

自閉症のイメージ

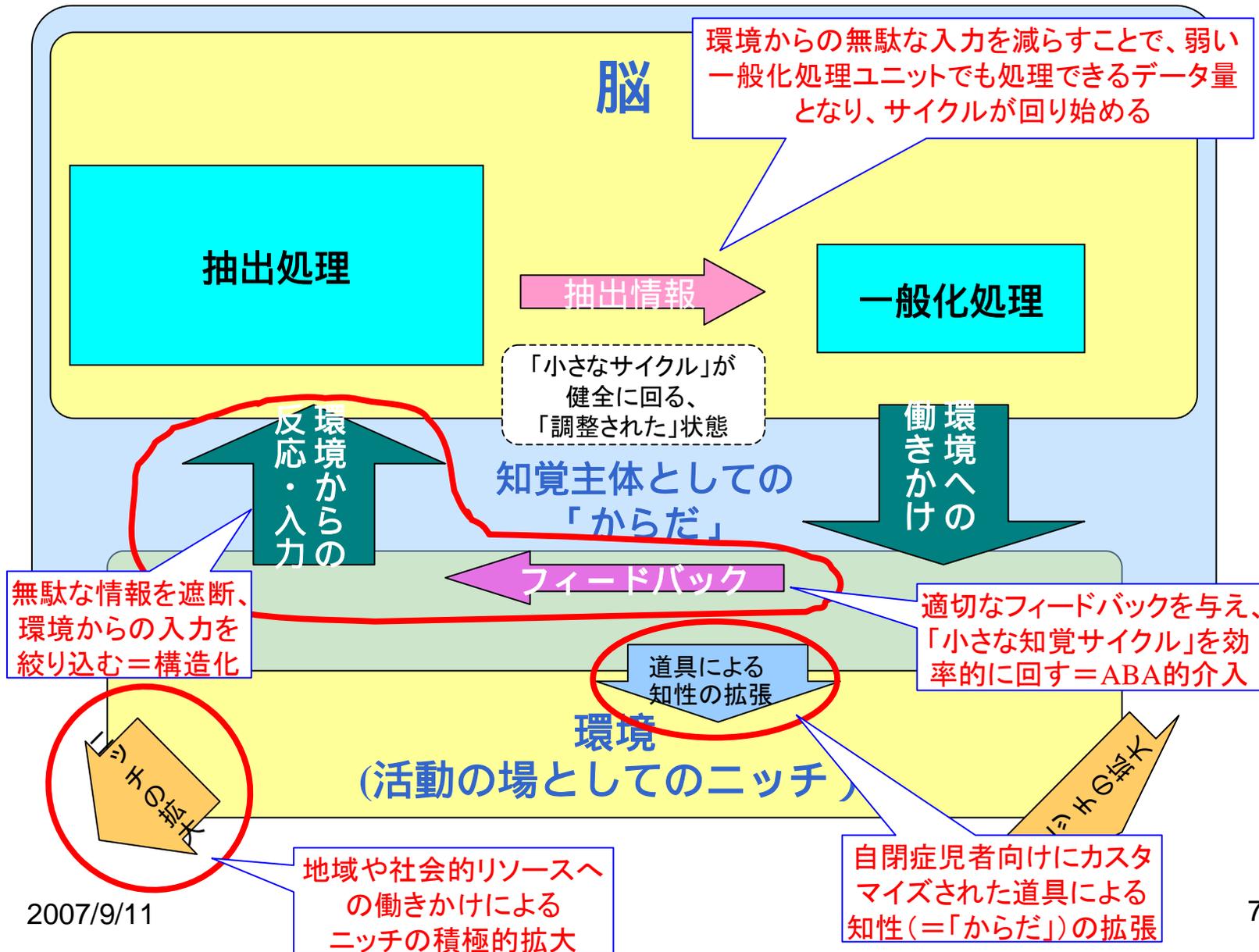


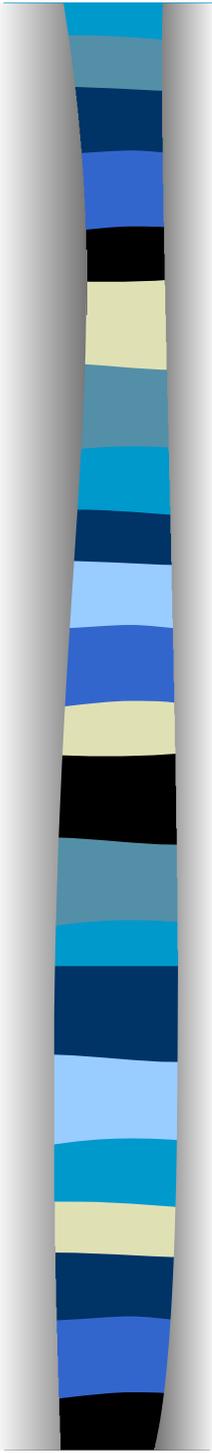
2007/9/11

いったい何がおこっているのか？

- 自閉症の本質＝一般化処理と抽出処理のアンバランス
 - － 抽出処理に比べ一般化処理が相対的に弱いことが自閉症を引き起こす
 - ・ 一般化処理の能力が弱まっているケース＝(低機能)自閉症
 - ・ 抽出処理の能力が過剰に強いケース＝アスペルガー症候群
- 一般化にこのような障害があると何がおこるか？
 - － 一般化処理のオーバーフロー
 - ・ 過去の経験をそのまま記憶するばかりで、将来に役立つルールに変わっていかない＝一般化困難(過剰なルール結合)
 - ・ 過去の経験から、誤ったルールを形成してしまう(誤ったルール化)
 - ・ 新しいことを教えると以前覚えていたことを忘れる、既に覚えているルールに新しいルールを追加すると覚えていたルールごと消える(ルール化の失敗)
- 一般化の障害と「非線形分離課題」
 - － 非線形分離課題＝例外や条件のついたルールを学習すること
 - ・ 例:ガム問題(一般に食べ物は口に入れたら出すべきではないが、ガムは出さなければならない)
 - － 一般化に障害があると、複雑な非線形分離課題を解くことが難しくなる
 - ・ 自閉症児に課題・ルールを教えるときは、その「非線形分離性」を考えることが重要(例外や条件の多い課題は自閉症児者にとって困難な課題となる)

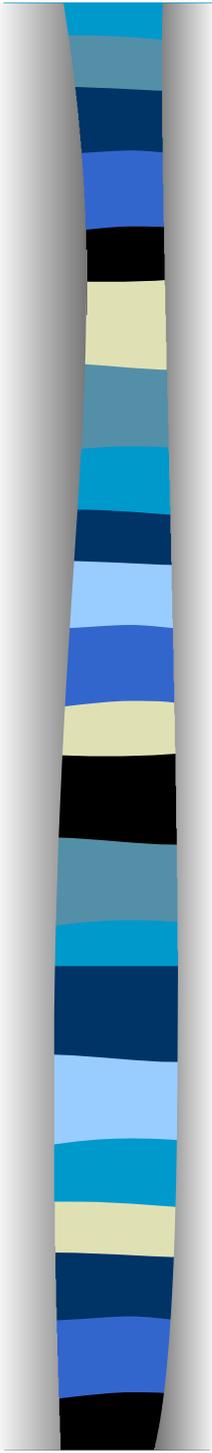
自閉症児者への療育的働きかけ





自閉症児者への有効な働きかけ

- 環境の構造化
 - 環境からの情報を絞り込み、意味のある情報だけを送り込むことによって、一般化処理のオーバーフローを防ぐ
- 行動療法(ABA)
 - フィードバックを構造化する
- 道具のリデザイン、ニッチの積極的拡大
 - 療育とは、子どもと環境との「接点」に働きかけること
 - そういう意味で、子どもの訓練と環境への働きかけは等価といえる
- 無理な般化を求めない
 - 自閉症＝般化の障害という側面が強い
 - 過度の般化訓練は、かえって子どもの適応を難しくする
- 「注意を向ける」ことを初めに訓練する
- できれば早期介入
 - でも、いつ始めても効果があるのも事実、「継続は力なり」
- 小さく始めて、大きく育てる
 - はじめに教えることは、シンプルでありかつ将来の複雑な内容の基礎になるもの



家庭の療育の守備範囲

■ Step 1 = 環境との相互作用のスイッチを入れる

- こちらの働きかけにほとんど反応しない状態から、(抵抗したりすることを含めて)働きかけに対する反応が返ってくる状態にまで引き上げるのがこの段階の課題
- 子どもの「発達」とは、自らの「からだ」と「外界」との間の相互作用によって伸びていくもの。その第一歩を踏み出すためには、以下の「気づき」が必要となる
 - 自分の「からだ」の存在に気づく
 - 自分の「からだ」と「外界」との境界の存在に気づく
 - 自分の「からだ」と「外界」との(操作を通じた)関係に気づく
- これらは言い換えると、①ボディ・イメージを作る、②(操作の対象としての)環境の存在に気づく、ということでもある

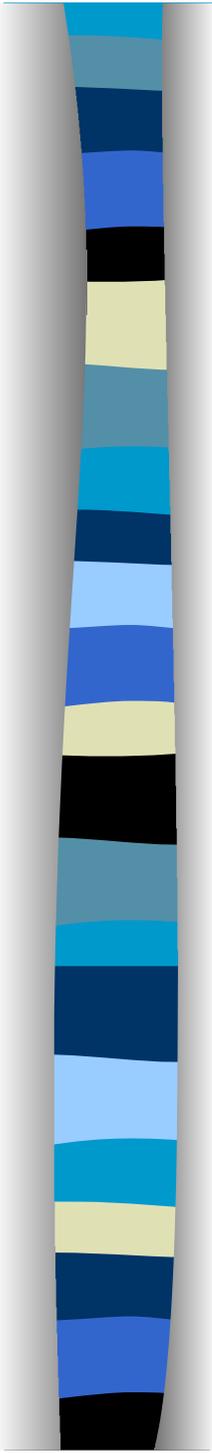
■ 具体的なStep 1の訓練のアイデア

- 感覚統合訓練
 - バランス感覚や触覚刺激、粗大運動などを通じて、自分の「からだ」の存在する感覚を確かなものにする訓練
- 鏡の療育
 - 子どもがいつでも覗ける大き目の鏡を生活空間に設置することにより、ボディ・イメージを確立し、「環境」を「操作」することを体験させる訓練
- 「ママは味方」メソッド
 - 母親=味方、父親=悪役、という明快な構図をつくることによって、子どもにとっての「人間関係」を構造化し、「他人」の存在に気づかせ、母親への愛着形成を目指す

(参考:鏡の療育イメージ)

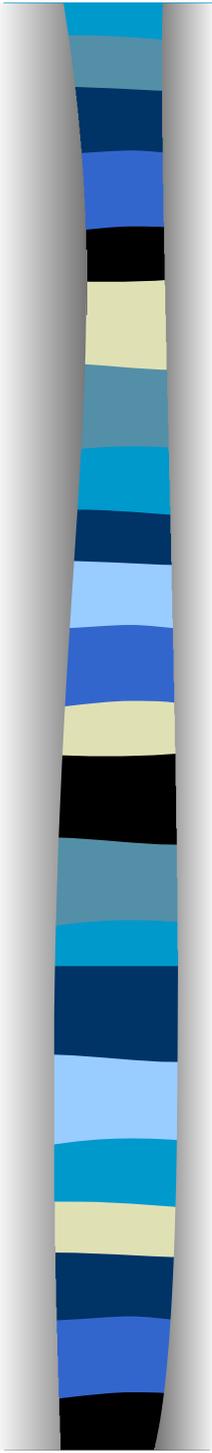


2007/9/11



家庭の療育の守備範囲(続き)

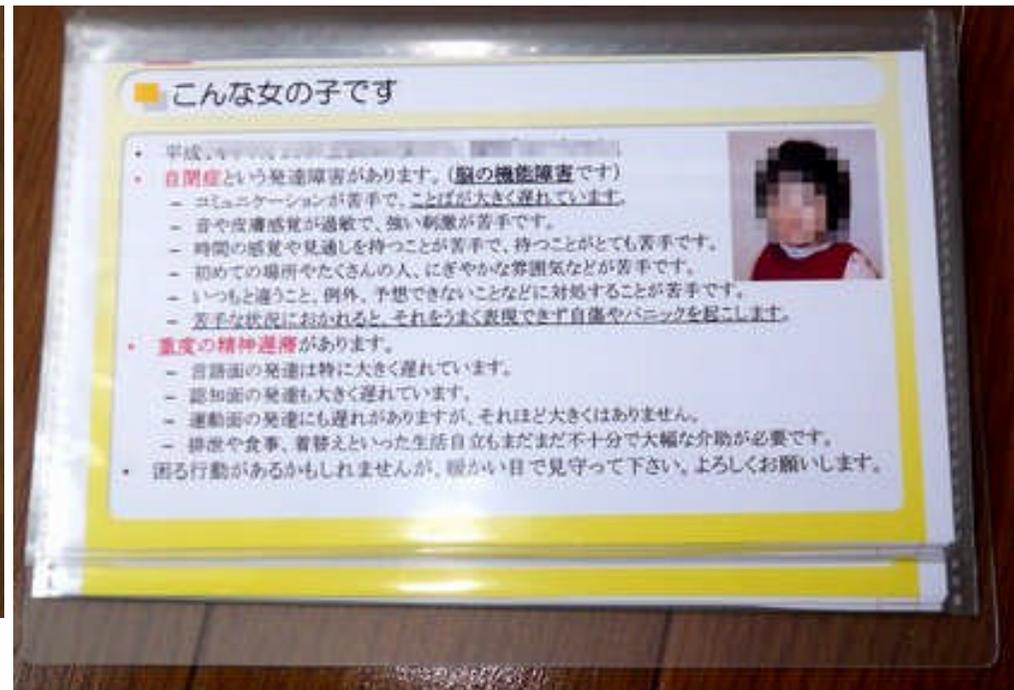
- Step 2 = 環境との相互作用の療育を開始する
 - コミュニケーション
 - コミュニケーションの療育=ことばの訓練、ではない
 - コミュニケーション=意思の伝達(「伝達したい」という意欲を含む)
 - 発語に遅れがある場合、絵カードを使ったPECSなども導入する
 - 生活自立
 - ABAによる日々のトレーニングが有効
 - 認知力
 - ABAを活用したフォーマルトレーニングが有効
 - 社会性
 - 問題行動のコントロール (ABAを活用)
 - 時間(TEACCHの構造化が有効である場合が多い)
 - スケジュールや時間に対する見通し
 - 「待つ」こと
 - 場面の切り替え
 - 余暇
 - 多くの自閉症児にとって「自由時間」=「何をしたいかわからない混乱の時間
 - 社会的に受け入れられ、本人も楽しく、お金がかからず長く続けられる趣味を見つける
 - 問題行動につながりがちな「こだわり」も、うまく趣味に転換できる場合もある



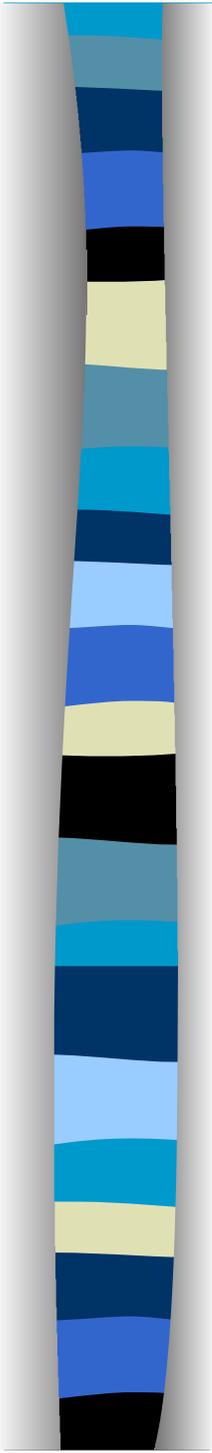
家庭の療育の守備範囲(続き)

- Step 3 = 環境の側にも働きかける
 - 療育とは、子どもと環境との接点に働きかけること
 - 子どもを訓練することと、環境に働きかけることはつながっている
 - 環境に働きかけることは、「周囲に同情を求めること」ではなく、子どもから見た「環境との接点の豊かさ・分かりやすさ・役立ち度」を高めること
- 具体的な「環境への働きかけ」とは、大きく分けると2つ
 - 道具のカスタマイズ
 - 自閉症児にとって使いづらい「道具(環境との接点を豊かにするためのもの)」を、自閉症児の特性にあったものに作り変えること
 - 例1: 音声言語の代わりに書き文字や絵カードを使って伝える
 - 例2: 「場の空気」のような分かりにくい要素を、目に見えるソーシャル・ストーリーに書き下ろして練習できるようにする
 - 例3: 折り返しのない巻物状のカレンダーとスケジュール表を使って月日や時間を理解させる
 - ニッチの積極的拡大
 - 子どもを取り囲む社会的リソース(近所の人、近所の施設、近所の交通機関など)に働きかけ、それらを子どもが利用しやすくすること
 - 例1: サポートブックを使って子どもの特性などをわかりやすく伝える
 - 例2: 近所のお店などと協力して、子どもが買い物やレジャーを自ら行なえるような環境を整える

(参考: サポートブックのイメージ)



- サポートブックを作る目的は、子どもにとって、「サポートブックを渡す相手がいる場所」が、より有意義で「環境との豊かな接点がある」場所になること。
- したがって、サポートブックに盛り込むべき内容としては、読む相手を知っているならば、よりの確な対応ができるような「知識・情報」を優先する。
- 特に、外見からは「できるはず」と誤解されて十分なケアが受けられない恐れのある事項や、逆に子どもの「強み」をうまく引き出して有意義な活動に導くためのコツなどははっきりと書くべき
- 連絡先やかかりつけ医師等の一般的な情報も加え、各自でカスタマイズする



TEACCHの構造化について

■ 構造化とは

- 環境に働きかけ、自閉症児にとって分かりやすい＝情報が取り出しやすく利用しやすい＝アフォーダンスが知覚・学習されやすい環境を積極的に作り出すこと
- 環境との相互作用が始まらなければその後の「発達」がそもそも始まらないので、構造化は単なる「甘やかし」ではなく、療育初期にこそ特に必要なサポートだといえる

■ 空間の構造化

- 部屋や場所の役割を明確に区別する

■ 時間の構造化

- スケジュールやタイマー等の活用

■ 作業の構造化

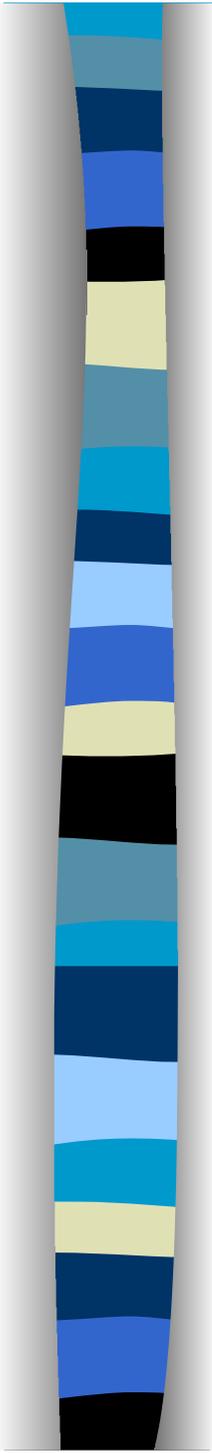
- 作業の情報を分かりやすく提示し、作業を自発的に行なえるようにする

■ 手順の構造化

- 作業の手順を左から右、箱から出してしまおうなど、パターン化する

■ 視覚化

- 絵カードを使ったコミュニケーション、スケジュール表など



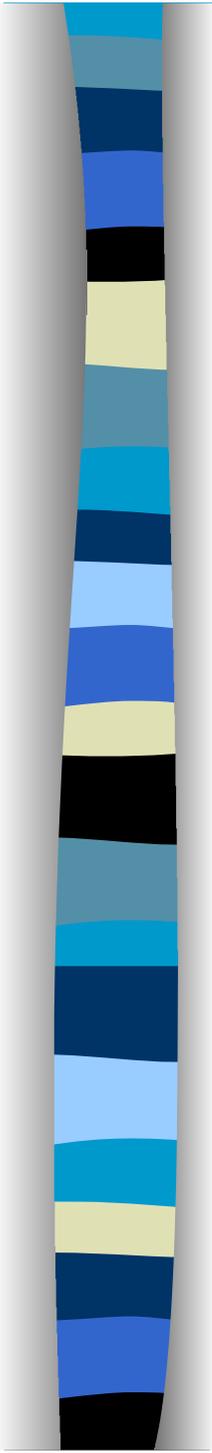
ABA(行動療法、応用行動分析)入門

■ 強化と消去と罰

- 強化: 行動の直後に「ごほうび」を与えることで行動を増やす働きかけ
- 消去: 行動に対し「ごほうび」を与えないことで行動を減らす働きかけ
- 罰: 行動の直後に「いやなこと」を与えることで行動を減らす働きかけ

■ 代替行動分化強化

- 問題行動は、「罰」では減らしにくい
 - 隠れて(いないときに)やる、脱走する、人を選ぶといった結果になりがち
 - 罰をやめるとすぐ復活する
- 問題行動は、「消去」でも減らしにくい
 - 何かが欲しいとかしたいといった欲求が背景にある場合、それが解消されない限り問題行動は長く続きがち
 - 長いパニック等に「根負け」して欲求をかなえてしまうと、「消去」ではなく「部分強化」になってしまい、かえって問題行動を強固に定着させてしまう(たまに大当たりすることでギャンブル中毒になるのと同じ構図)
- 問題行動解決の原則は、「代替行動の強化」
 - 社会的に受け入れられる「代替行動」に誘導し、強化する
 - もともとの「問題行動」は消去していく



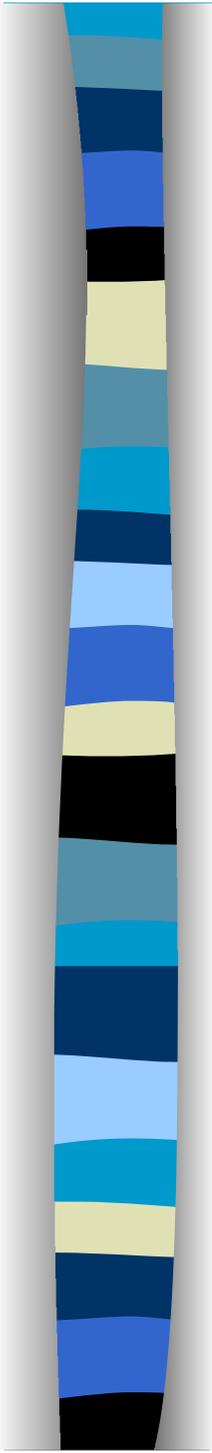
PECSについて

- PECS = Picture Exchange Communication System
(絵カード交換式コミュニケーションシステム)
- 絵カードを渡すことでコミュニケーションを実現する療育法
- TEACCH的な「視覚化」と、ABAによる行動形成を組み合わせた、自閉症児の特性によく合ったコミュニケーションの指導法
- 発語のない自閉症児にはことばの代わりとして、発語のある自閉症児にもコミュニケーションを伸ばすための補助ツールとして
- フェーズ1～3は特によくできたプログラムで、遅れの大きな子どもでも比較的容易に導入し効果が実感できる
 - フェーズ1：子どもの好物のカードを1種類だけ作り、子どもがそれを欲しがったときにカードを渡すという行動を手をとって(プロンプトをして)教える。手助けは徐々に減らす(フェイディング)
 - フェーズ2：同時に使うカードは1種類のままだが、カードと「欲しいもの」の距離を離したり、いろいろなカードを使ったりする
 - フェーズ3：複数のカードを同時に選んで使わせる

(参考: PECS用の絵カードのイメージ)



2007/9/11



参考図書

■ TEACCH系

- 「自閉症のすべてがわかる本」佐々木正美:講談社
- 「自閉症児のための絵で見る構造化パート2－TEACCHビジュアル図鑑」佐々木正美:学習研究社

■ ABA系

- 「行動分析学入門－ヒトの行動の思いがけない理由」杉山尚子:集英社新書
- 「うまくやるための強化の原理－飼いネコから配偶者まで」カレン・プライア:二瓶社
- 「みんなの自立支援を目指すやさしい応用行動分析学」高畑庄蔵:明治図書

■ PECS系

- 「自閉症児と絵カードでコミュニケーション－PECSとAAC」アンディ・ボンディ、ロリ・フロスト:二瓶社

■ その他の自閉症関連図書

- 「発達障害のある子とお母さん・先生のための思いっきり支援ツール」武蔵 博文・高畑 庄蔵:エンパワメント研究所
- 「自閉っ子、こういう風にできてます！」ニキリンコ:花風社
- 「あなたが育てる自閉症のことば 2歳からはじめる自閉症児の言語訓練」藤原加奈江 診断と治療社
- 「自閉症－『からだ』と『せかい』をつなぐ新しい理解と療育」藤居 学、神谷栄治:新曜社

ブログのご紹介

お父さんの[そらまめ式]自閉症療育

自閉症や発達障害のお子さんを持つお父さんを応援するブログです。応用行動分析(ABA)、TEACCH、PECS、認知心理学の知見を活用し、普段家にはいない父親がどのように子どもの療育に関わり、家族の活力のために何をすべきか、そんなことを考えていきたいと思ひます。

あわせて、「日々の生活がそのまま療育」になるような、頑張らないけど効果は高い、そんな療育プログラムの開発を目指します。

定期更新日: 毎週月曜日



オリジナル教材

「おくちがみえるDVD」シリーズ
おくちがみえる おうたの映像
マッチングカード
PECS絵カード用テンプレート
PECS用「待って」カード / 俵い方 1, 2
いろいろ写真シート
写真サイズ「あいさえおカード」
いえるかな? あいさえおサポーター
「障害をもっています」ワッペン
子どもの行動記録ノート
書籍「自閉症児と絵カードでコミュニケーション-PECSとAAC」日本語訳修正案
加配リクエストシート



←オリジナル療育DVD「おくちがみえる おうたにとぼのDVD」ご希望の方にお配りしています。

PECS絵カード用のテンプレートを公開しました。

自閉症関連のブックレビューも多数掲載しています。

<< 特省の写真 | TOP | 7月のアクセスランキング >>

2007年08月06日 [Mon]

■ パニックを考える(2)

パニックに関するシリーズ記事です。

さてここで、パニックの定義に戻ります。

この記事を書くためにウェブや書籍にあたってみました。どれもパニックという用語を何も定義せず、さながら手当たり次第に使っているものが多い。パニックが具体的に定義されているものを本

当ブログの本



自閉症「からだ」と「せかい」を...
藤居 学, 神谷 榮治
ロープライス ¥1,995
or 新品 ¥1,995
ポイント 19pt

当ブログから本が出ました。

- お父さんの[そらまめ式]自閉症療育 <http://soramame-shiki.seesaa.net/>
- 自閉症に関する知識や、家庭での無理をしない効果的な療育について情報発信しています。(毎週月曜日更新+不定期更新)
- オリジナル教材もいくつかご提供しています。

2007/9/11